

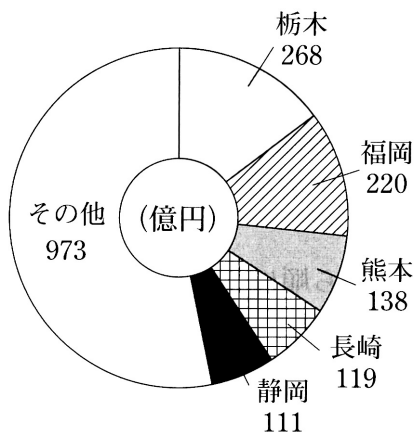
第 11 章	地理(1 年)	高校入試過去問題	日本の地域	1320
			地域的特色	

[問題 1] (岡山 2022 年 2 月)

優希さんは、ケーキを作るための材料を買いにスーパーマーケットへ行きましたが、イチゴが手に入りませんでした。優希さんは、なぜ売り場にイチゴがないのかと疑問を感じ、イチゴについて調べ、資料を作成しました。

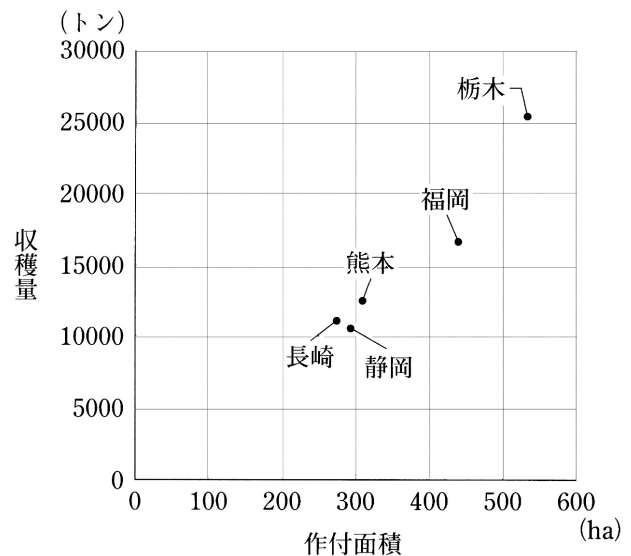
問 1～問 4 に答えなさい。

資料 1 全国のイチゴの産出額とその上位 5 県



(注) 統計年次は資料 1, 資料 2 ともに 2019 年。

資料 2 県別のイチゴの作付面積と収穫量



(資料 1, 資料 2 ともに農林水産省統計から作成)

問 1 資料 1, 資料 2 から読み取れる内容として適当なのは, ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア イチゴの産出額は, 上位 5 県で全国の半分以上を占めている。
- イ イチゴの産出額の上位 5 県の順番は, 作付面積の大きい順と同じである。
- ウ イチゴの産出額の上位 5 県の順番は, 収穫量の多い順と同じである。
- エ 作付面積 1 ha 当たりのイチゴの収穫量は, 資料の 5 県のうちで福岡県が最も多い。

問2 優希さんは、資料1の上位5県の産業について調べ、表にまとめました。次の資料3はその一部です。静岡県が当てはまるのは、ア～エのうちのどれですか。一つ答えなさい。

資料3

県	農業産出額(億円)				製造品 出荷額等 (億円)	貨物輸送量			
		米	野菜	畜産		鉄道 (万トン)	自動車 (万トン)	海上 (万トン)	航空 (トン)
ア	1 979	198	607	461	172 749	73	12 828	844	372
イ	3 364	368	1 220	1 148	28 706	24	5 907	745	9 821
福岡	2 027	376	702	389	99 760	122	19 409	5 288	107 150
ウ	1 513	116	453	558	17 385	3	3 338	312	9 341
エ	2 859	671	784	1 156	90 110	52	8 963	—	—

(注) —は皆無なことを示している。統計年次は2019年。

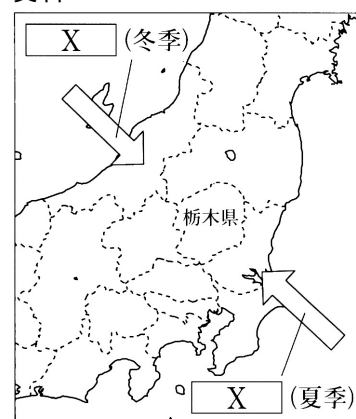
(「データでみる県勢2022」から作成)

問3 優希さんは、栃木県でのイチゴの栽培について、資料4を用いて次のようにまとめました。

(1), (2)に答えなさい。

資料4の矢印は の風向きを表しています。栃木県は、この風と県北西部の山地の影響で に晴れる日が多く、日照時間が長くなります。また、日本最大の流域面積を持つ の支流である渡良瀬川や鬼怒川など、県内に複数の大きな河川があり、水資源が豊富です。このような自然環境を生かしたイチゴの栽培が行われています。

資料4



(1) に当てはまる風の名称を書きなさい。

(2) , に当てはまることばの組み合わせとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア : 夏 : 利根川 イ : 夏 : 信濃川
 ウ : 冬 : 利根川 エ : 冬 : 信濃川

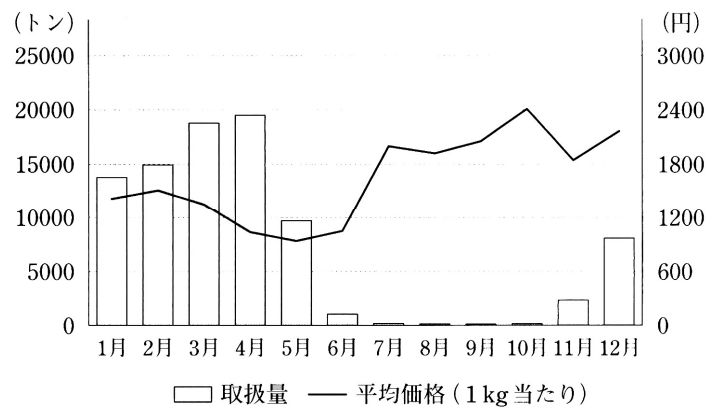
問4 優希さんは、資料5，資料6を見つけ、次のようにまとめました。資料5はイチゴの品種の説明であり、資料6は全国の卸売市場でのイチゴの月別取扱量とその1kg当たりの平均価格を示したグラフです。 に当てはまる適当な内容を書きなさい。

資料5

品種名
夏のしずく
収穫時期
6月から11月
栽培に適した場所
寒冷地や高冷地

(農業・食品産業技術総合研究

資料6 全国主要都市卸売市場のイチゴの月別取扱量と平均価格



(注) 統計年次は2019年。

(農林水産省「青果物卸売市場調査報告」から作成)

資料5の「夏のしずく」は、2021年に新たに育成されたイチゴの品種です。資料6から、この「夏のしずく」は、 ことをねらいとして開発されたと考えられます。このような品種の栽培が盛んになれば、イチゴ農家の収益が上がるとともに、売り場からイチゴがなくなることは減るかもしれません。

[解答欄]

問 1	ウ	
問 2	ア	
問 3	(1)	季節風
	(2)	ウ
問 4	(例) 市場での取扱量が少なく、平均価格の高い時期に収穫、出荷する	

[解説]

問 1 ア：資料 1 のイチゴの産出額は、上位 5 県で 856 億円で、全体の半分以下であるので、誤り。

イ：資料 2 より、静岡のほうが長崎よりも作付面積が大きいですが、資料 1 より、産出額は長崎のほうが静岡よりも大きいため、誤り。

ウ：資料 1 のイチゴの産出額が大きい順と、資料 2 のイチゴの収穫量の大きい順は同じであるため、正解。

エ：作付面積 1 ha 当たりのイチゴの収穫量は、 $\text{収穫量} \div \text{作付面積 (ha)}$ で求めることができる。そのため、福岡よりも栃木のほうが多くなるので、誤り。

問 2 静岡県は製造品出荷額等が全国 3 位（2019 年）である。そのため、資料 3 より製造品出荷額等が最も多いアが正解。それぞれ、イは熊本県、ウは長崎県、エは栃木県である。

問 4 資料 6 より、市場でのイチゴの取扱量が少ないのは 6 月から 11 月であり、その間の平均価格は高い。資料 5 より、「夏のしずく」は、その時期に収穫して出荷するねらいで開発されたと考えられる。よって、その 2 点を理由として述べればよい。

[問題 2] (宮崎 2022 年 2 月)

問 ^{やすのり} 保則さんは、「日本における持続可能なまちづくり」について調べ、資料 1 を作成しました。
後の (1)～(5) の問いに答えなさい。

資料 1

保則さんが作成した資料(一部)

○ 持続可能なまちづくりに向けた取り組みの事例

7 地方区分	県名	主な取り組み
中国・四国地方	徳島県	「葉っぱビジネス」による地域活性化
	山口県	地域内産業の技術革新の推進
地方	愛知県	次世代の交通を生み出すサービスの進展
	富山県	d 水産業の振興と富山のさかなのブランド向上
a 東北地方	b 秋田県	水素エネルギーの活用による産業振興
	c 岩手県	防災・減災による安全・安心なまちづくり

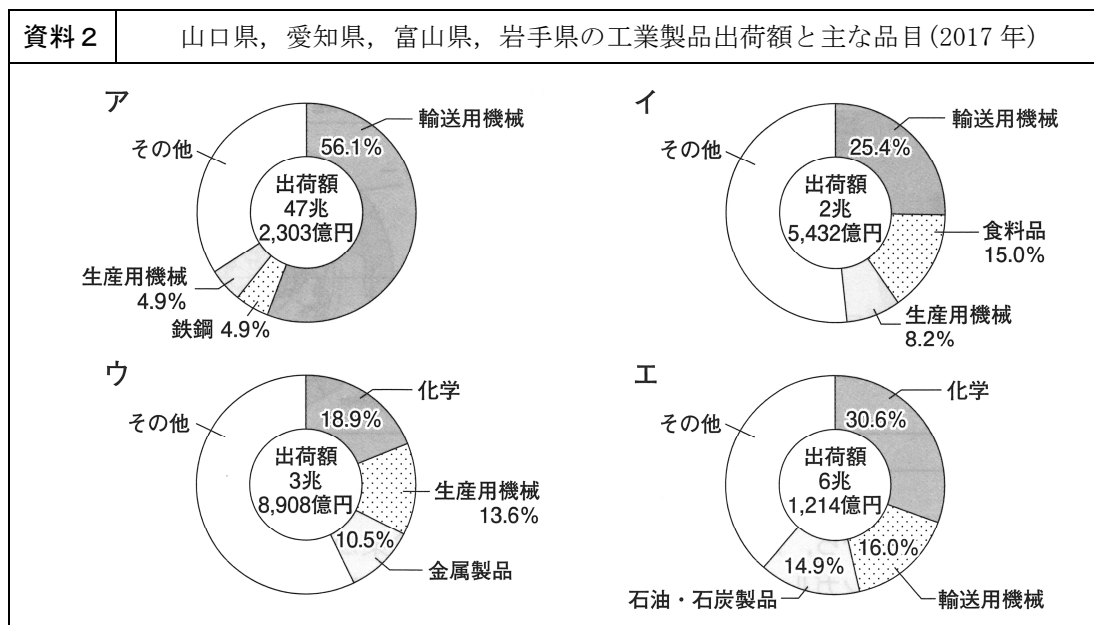
(「内閣府資料」他より作成)

(1) 資料 1 の に当てはまる語を、漢字で書きなさい。

(2) 資料 1 の下線部 a の太平洋の沖にある潮目（潮境）についての説明として最も適切なものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

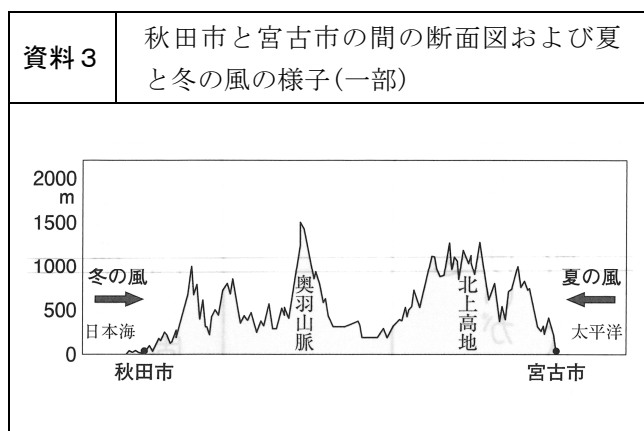
- ア 奥行きのある湾と小さな岬がくり返す海岸
- イ 海岸からゆるやかに傾斜して続く浅い海底
- ウ 寒流の千島海流と暖流の日本海流がぶつかる場所
- エ 沿岸から 200 海里までのうち領海を除く部分

- (3) 保則さんは、資料 1 の山口県、愛知県、富山県、岩手県の工業について調べ、資料 2 を作成しました。次のア～エのうち、愛知県に当たるものを 1 つ選び、記号で答えなさい。



(「データでみる県勢 2020 年版」他より作成)

- (4) 保則さんは、資料 1 の下線部 b, c に関して、秋田市と岩手県宮古市がほぼ同じ緯度上にあることを知り、興味をもち調べていく中で、資料 3, 4 を見つけました。資料 3 をもとに、資料 4 の に当てはまる数値として最も適切なものを、下のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。



(「地理院地図」より作成)

資料 4		秋田市と宮古市の平均気温と降水量の※平年値(一部)	
		秋田市	宮古市
平均気温の平年値(℃)	1 月	0.4	0.5
	8 月		
降水量の平年値(mm)	1 月		
	8 月	184.6	177.9

※平年値は 1991 年から 2020 年の 30 年間の平均

(「気象庁資料」より作成)

ア	イ	ウ	エ
25.0	25.0	22.1	22.1
63.4	118.9	25.0	25.0
		63.4	118.9
		118.9	63.4

(5) 保則さんは、資料 1 の下線部 d に関して、宮崎県についても調べていく中で、資料 5 を見つけ、「なぜ水産物の輸出を拡大する取り組みがみられるのだろうか」という疑問をもち、新たに 2 つの資料を使って、下のような仮説を立てました。

保則さんが仮説を立てるときに、根拠とした資料として適切なものを、下のア～エから 2 つ選び、記号で答えなさい。

資料 5	水産物の輸出拡大に向けた宮崎県の取り組み
	宮崎県では、ブリの養殖が行われており、生産拡大が見込まれる養殖業を、県は成長産業と位置づけ、大型の生けすを整備して、輸出拡大に向けた取り組みを進めている。 2020 年、国は宮崎県をブリの「輸出産地」の一つとして選定し、重点的に支援することを決めた。

(「宮崎県水産白書」他より作成)

保則さんの仮説

資料 5 の「輸出産地」の事例のように、水産物の輸出を拡大する取り組みがみられる要因の一つには、日本の水産物の国内市場が縮小していることがあるのだろう。

- ア 日本の人口推移と今後の予測値を示した資料
- イ 日本のある年における都道府県別漁獲量を示した資料
- ウ 日本の水産物輸入先の国を地図上に示した資料
- エ 日本の 1 人 1 年あたりの水産物購入量の変化を示した資料

[解答欄]

(1)	中部	
(2)	ウ	
(3)	ア	
(4)	イ	
(5)	ア	エ

[解説]

(3) 愛知県は豊田市の自動車生産を中心に輸送用機械の割合が大きく、工業製品出荷額は全国第一位だからアの統計となる。イは岩手県、ウは富山県、エは山口県である。

(4) 秋田市と宮古市では、秋田市が奥羽山脈より日本海側にあり、冬の季節風の影響を受け、1月の降水量が多くなる。

また、日本海側の夏は晴天が多く気温も高いが、太平洋側はやませによる冷氣や、日照不足により夏でも気温が低くなることから判断する。

(5) 「国内市場が縮小している」という表現をどう捉えるかが鍵となる。

 **解答のヒント** 人口減少や食生活の変化などを考えて、国内の消費量が減少していることを考察しよう。

[問題 3] (鹿児島 2022 年 2 月)

次の略地図を見て、1～5の問いに答えよ。

1 近畿地方で海に面していない府県の数を、略地図を参考に答えよ。

2 略地図中のあで示した火山がある地域には、火山の大規模な噴火にともなって形成された大きなくぼ地がみられる。このような地形を何というか。

3 略地図中のA～Dの県にみられる、産業の特色について述べた次のア～エの文のうち、Dについて述べた文として最も適当なものはどれか。

ア 標高が高く夏でも涼しい気候を生かし、レタスなどの高原野菜の生産が盛んである。

イ 涼しい気候を利用したりんごの栽培が盛んで、国内の生産量の半分以上を占めている。

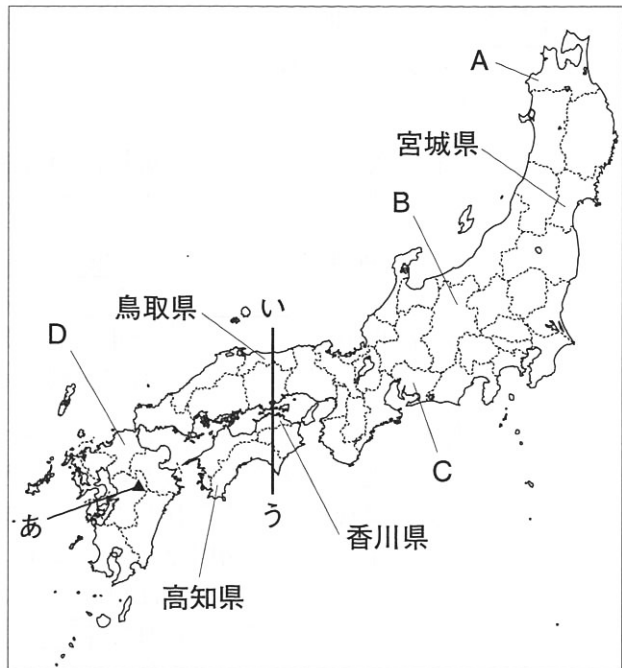
ウ 明治時代に官営の製鉄所がつくられた地域では、エコタウンでのリサイクルが盛んである。

エ 自動車の関連工場が集まっており、自動車を含む輸送用機械の生産額は全国1位である。

4 略地図中の宮城県ではさけやあわびなどの「育てる漁業」が行われている。「育てる漁業」に関してまとめた資料1について、次の(1)、(2)の問いに答えよ。

(1) ㉔について、このような漁業を何というか。

(2) にあてはまる最も適当なことばを書け。



資料 1

【「育てる漁業」の種類】

- ・魚や貝などを、いけすなどを利用して大きくなるまで育てて出荷する。
- ・㉔魚や貝などを卵からふ化させ、人工的に育てた後に放流し、自然の中で成長したものを漁獲する。

【日本で「育てる漁業」への転換が進められた理由の一つ】

- ・他国が 200 海里以内の を設定したことにより、「とる漁業」が難しくなったから。

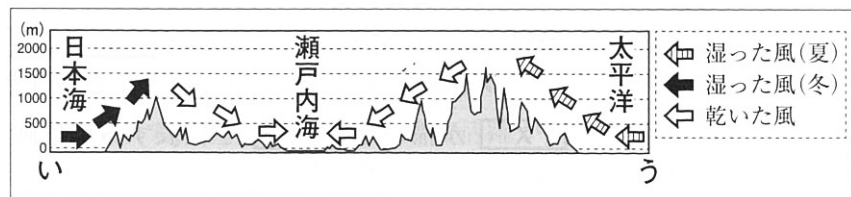
- 5 資料2は略地図中の鳥取県、香川県、高知県のそれぞれの県庁所在地の降水量を示している。資料2にみられるように、3県の中で香川県の降水量が特に少ない理由を、資料3をもとにして書け。ただし、日本海、太平洋ということばを使うこと。

資料2

	年降水量
鳥取県鳥取	1931.3mm
香川県高松	1150.1mm
高知県高知	2666.4mm

(気象庁統計から作成)

資料3 略地図中いーう間の断面図と季節風の様子



(地理院地図などから作成)

[解答欄]

1	2		
2	カルデラ		
3	ウ		
4	(1)	栽培	漁業
	(2)	排他的経済水域	
5	(例) 太平洋や日本海から吹く湿った風が山地によってさえぎられ、乾いた風が吹くから。		

[解説]

- 1 近畿地方で海に面していないのは、滋賀県と奈良県である。よって、2つとなる。
- 5 資料3からわかるように、冬の季節風は日本海側に雪や雨を降らし、夏の季節風は太平洋側に雨を降らせる。よって、日本海側の鳥取市は冬を中心に降水量が多くなり、太平洋側の高知市は夏を中心に降水量が多くなる。瀬戸内海に面した高松市は、季節風が中国山地と四国山地にさえぎられるため降水量が少なくなっている。

[問題 4] (徳島 2022 年 2 月)

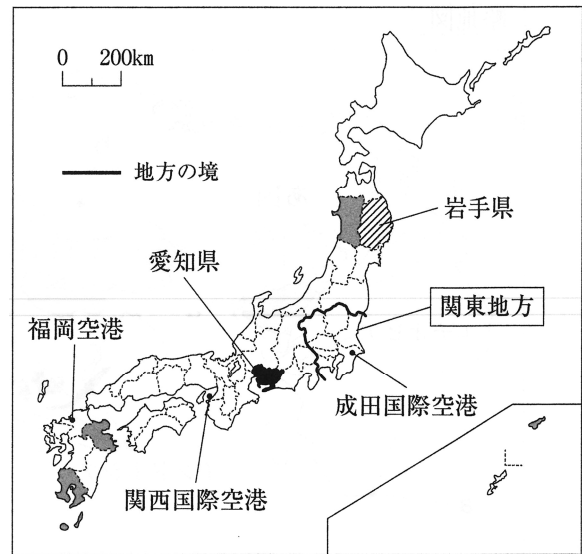
次の略地図や資料を見て、問 1～問 5 に答えなさい。

- 問 1** 次の文は、略地図中の関東地方について述べたものの一部である。正しい文になるように、文中の①は、ア・イのいずれかを選び、②にはあてはまる語句を書きなさい。

北関東を中心とする内陸の地域は、夏と冬の気温差が大きく、降水量が少ないという特徴がある。一方、南関東を中心とする海沿いの地域は、① [ア 親潮 イ 黒潮] が近海を流れるため冬でも温暖なのが特徴である。

ビルや商業施設が集中する東京の中心部では、気温が周辺地域よりも高くなる(②)現象がみられる。

略地図

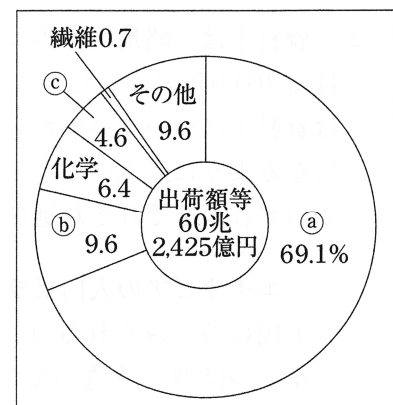


(「データでみる県勢」2022 年版より作成)

- 問 2** 資料 I は、略地図中の愛知県を中心とする中京工業地帯の 2018 年における工業出荷額等の割合を表している。資料 I 中の①～③にあてはまる工業は何か、その組み合わせとして正しいものをア～エから 1 つ選びなさい。

- ア ① 金属工業 ② 機械工業 ③ 食料品工業
 イ ① 機械工業 ② 食料品工業 ③ 金属工業
 ウ ① 金属工業 ② 食料品工業 ③ 機械工業
 エ ① 機械工業 ② 金属工業 ③ 食料品工業

資料 I



(「日本国勢図会」2021/22 年版より作成)

- 問 3** わが国では、特色ある伝統的工芸品が各地で生産されている。略地図中の岩手県で生産されている伝統的工芸品として最も適切なものをア～エから選びなさい。

- ア 南部鉄器 イ 西陣織 ウ 会津塗 エ 天童将棋駒

- 問 4** 略地図中の (黒丸) は、2020 年度のわが国における、ある発電方式による発電量の上位 3 県を示している。ある発電方式とは何か、次の文を参考にして、書きなさい。

資源の少ない日本では、自然の恵みをエネルギーに生かす再生可能エネルギーを利用した発電の拡大が期待されており、この発電方式も再生可能エネルギーを活用した発電の一つである。国内の発電所の 4 割が九州地方に集中しており、大分県にはこの発電方式としては日本最大級の発電所がある。

問5 資料Ⅱは、略地図中の成田国際空港、関西国際空港、福岡空港を2019年に利用した、各空港ごとの訪日外国人の国・地域別割合を表している。福岡空港にあてはまるものはどれか、資料Ⅱ中のア～ウから1つ選び、さらに、そのように判断した理由を、アジアに着目して書きなさい。

資料Ⅱ

単位(%)

空港	アジア				その他の国や地域
	中国	(台湾)	韓国	その他	
ア	22.0	12.2	10.4	25.9	29.5
イ	10.4	14.9	49.4	20.9	4.4
ウ	39.4	13.1	18.0	20.6	8.9

〔「法務省資料」より作成〕

[解答欄]

問1	①	イ
	②	ヒートアイランド 現象
問2	エ	
問3	ア	
問4	地熱 発電	
問5	記号	イ
	理由	(例) 韓国の割合が最も高いから。

[解説]

問1 ① 南関東を中心とする海沿いの地域では、冬でも温暖である。これは、暖流である日本海流（黒潮）が太平洋側に流れているためである。

🔍 **解答のヒント** 日本付近の海流を確認しておこう！

- ・暖流…太平洋側を流れる日本海流（黒潮）と、日本海側を流れる対馬海流。
- ・寒流…太平洋側を流れる千島海流（親潮）と、日本海側を流れるリマン海流。

→東日本の太平洋沖には、黒潮と親潮のぶつかる潮目があり、好漁場となっている。

② 都心部と郊外の気温を比較すると、都心部のほうが夜でも気温が高い。都心部と郊外を比べて、都心部の気温が高いことをヒートアイランド現象という。

問2 中京工業地帯では、豊田市を中心に自動車産業が盛んである。そのため、工業出荷額等の割合で機械工業の占める割合が約7割と高くなっている。また、東海市には製鉄所があり、工業出荷額等の割合で金属工業の占める割合が2番目に高くなっている。

問3 ア：岩手県の伝統的工芸品である。イ：京都府の伝統的工芸品である。ウ：福島県の伝統的工芸品である。エ：山形県の伝統的工芸品である。よって、アが正解。

問4 文中の「再生可能エネルギー」、「大分県」というキーワードから、この発電方式は地熱発電であることがわかる。地熱発電とは、地中から取り出した蒸気を利用した発電方式で、火山活動の活発な九州地方の大分県には日本最大級の地熱発電所がある。

問5 福岡空港から距離が近い韓国の割合が最も高い点に注目する。したがって福岡空港にあてはまるのはイであるとわかる。

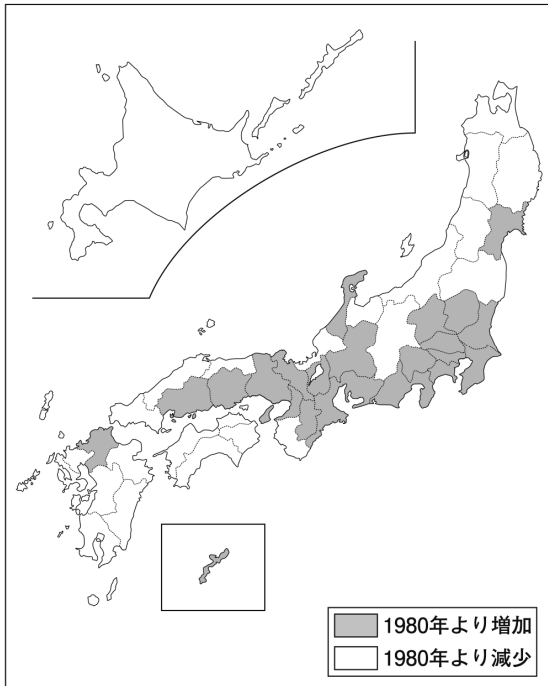
[問題 5] (福岡 2022 年 2 月)

洋一さんは、日本の様々な地域の特色について調べ、資料集を作成した。資料集をみて、各問に答えよ。

資料集

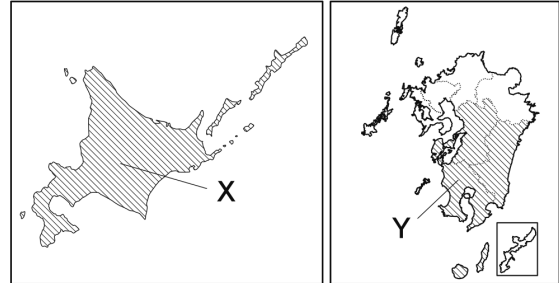
都道府県の人口の変化

資料Ⅰ 1980 年と比較した 2020 年の人口の増減

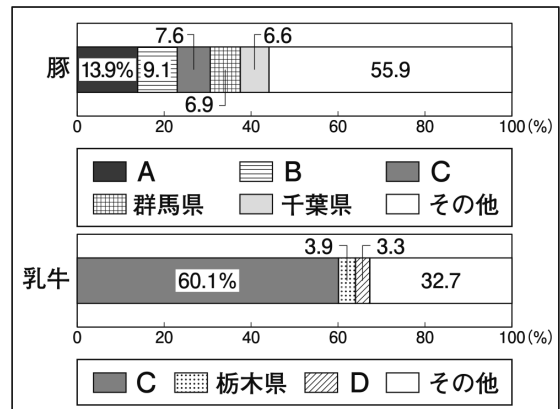


(総務省ホームページから作成)

北海道地方と九州地方の畜産業

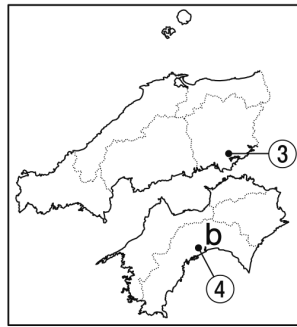
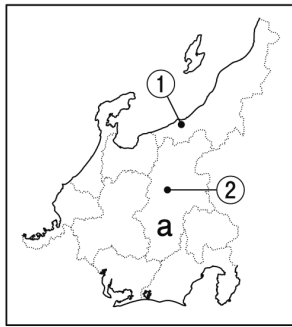


資料Ⅱ 豚と乳牛の飼育頭数の割合 (2019 年)



(2021 年版「データでみる県勢」等から作成)

中部地方と中国・四国地方の自然環境と農業

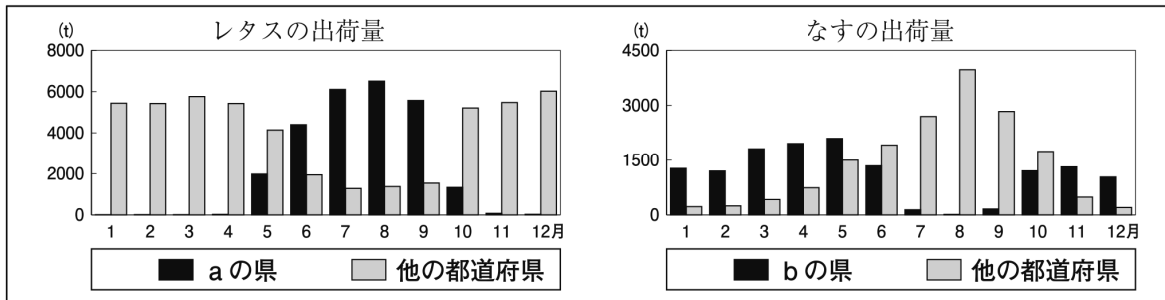


資料Ⅲ ①～④の都市の月平均気温と月降水量

項目	月平均気温(℃)		月降水量(mm)	
	1月	7月	1月	7月
都市あ	6.3	26.7	58.6	328.3
都市い	-0.4	23.6	35.9	138.4
都市う	4.9	27.2	34.2	160.9
都市え	2.4	24.6	419.1	210.6

(令和3年「理科年表」から作成)

資料Ⅳ 東京都中央卸売市場へのレタスとなすの出荷量(2019年)



(東京都中央卸売市場ホームページから作成)

資料Ⅰ，略地図の図法，縮尺は同じではない。

問1 日本を七つの地方(九州，中国・四国，近畿，中部，関東，東北，北海道)に区分したとき，資料Ⅰから，下の ☐ 内の二つの条件にあてはまる地方を二つ選び，地方名を書け。

条件1：2020年の人口が1980年から増加している都道府県の数が多い地方

条件2：人口が100万人以上の都市が二つ以上ある地方

問2 北海道地方と九州地方の畜産業について，略地図の  で示す道県は，資料ⅡのA～Dのいずれかを示している。略地図のX，Yの道県を示すものを，A～Dからそれぞれ一つ選び，記号を書け。ただし，同じ記号は同じ道県を示している。

問3 中部地方と中国・四国地方の自然環境と農業について，(1)，(2)に答えよ。

(1) 略地図の①～④は，資料Ⅲのあ～えのいずれかの都市を示している。②の都市にあてはまるものを，あ～えから一つ選び，記号を書け。

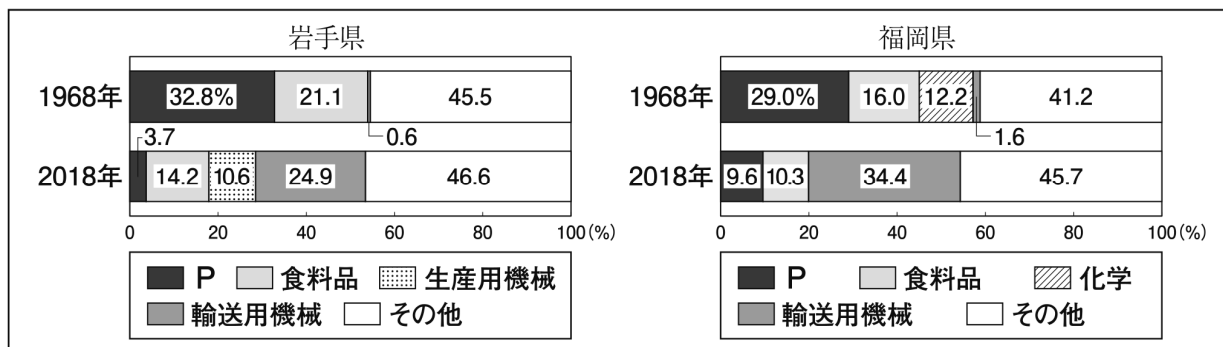
(2) 略地図のa，bの県に共通する出荷時期の特色を，資料Ⅳから読み取って書け。

問4 洋一さんは、日本の工業の特色について調べ、資料を集めた。(1)，(2)に答えよ。

(1) 資料ⅤのPにあてはまる品目を、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

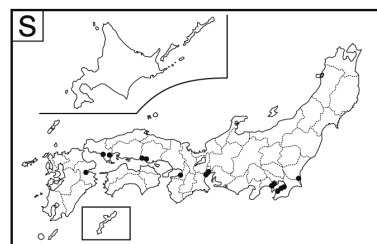
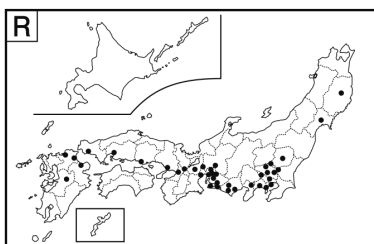
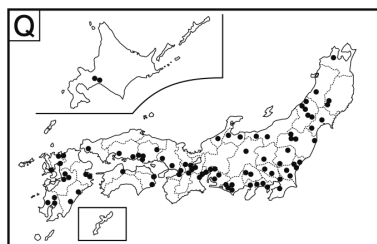
- 1 パルプ・紙 2 精密機械 3 鉄鋼 4 繊維

資料Ⅴ 工業製品出荷額等割合の変化



(経済産業省ホームページ等から作成)

(2) 次のQ～Sは、I C（集積回路）工場，自動車組立工場，石油化学コンビナートのいずれかの分布を示し、ア～ウは、洋一さんがそれぞれの分布の特徴を説明したものである。I C（集積回路）工場と、石油化学コンビナートについて、分布を示すものをQ～Sから、分布の特徴を説明したものをア～ウからそれぞれ一つ選び、記号を書け。



(2019/20年版「日本国勢図会」から作成)

ア

原料を輸入するため
に太平洋ベルトの臨海
部に分布している。

イ

製品を輸送するため
に空港や高速道路の近
くに分布している。

ウ

愛知県や静岡県に集
中し、近年は、北関東に
も広がって分布してい

[解答欄]

問 1	近畿 地方			
	関東 地方			
問 2	X	C	Y	A
問 3	(1)	い		
	(2)	(例) 他の都道府県のレタスやなすの出荷量が少ない時期に、多く出荷している。		
問 4	(1)	3		
	(2)		分布	分布の特徴
		I C (集積回路) 工場	Q	イ
		石油化学コンビナート	S	ア

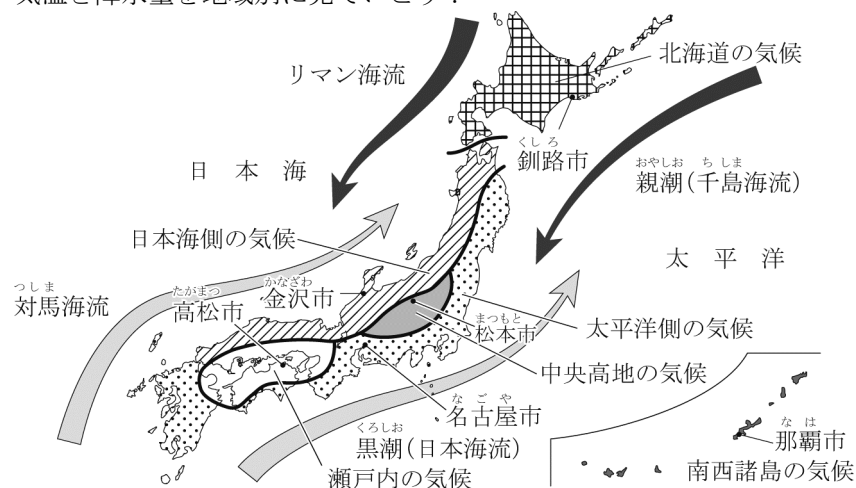
[解説]

問 2 Xの北海道は乳牛の飼育頭数が最も多く、Yの鹿児島県は豚の飼育頭数が最も多い。
よって、XはC、YはAが正解。

問 3 (1) ②の都市は内陸に位置することから、1年中降水量が少なく、気温の年較差が大きくなるといった中央高地の気候の特色が見られる。よって、いが正解。

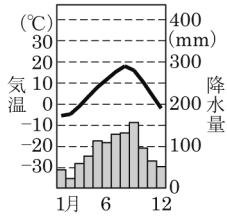
ポイント>> 日本の気候の特徴を覚えよう！

気温と降水量を地域別に見ていこう！

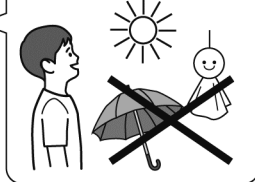


北海道の気候

年平均気温 6.2℃
年降水量 1042.9mm

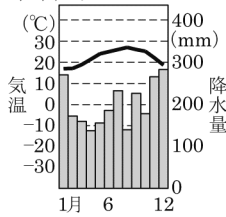


6月に雨が少ない
＝梅雨がない！



日本海側の気候

年平均気温 14.6℃
年降水量 2398.9mm

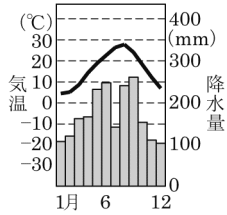


冬に降水量が多い！
降水量のグラフは
パンザイしている形！



太平洋側の気候

年平均気温 15.8℃
年降水量 1535.3mm

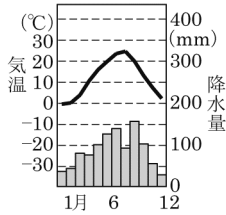


夏に降水量が多い！
降水量のグラフは
手を合わせている形！

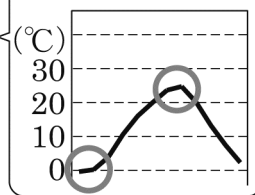


中央高地の気候

年平均気温 11.8℃
年降水量 1031.0mm

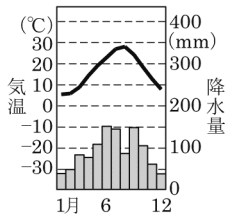


寒暖の差が大きい！
冬はマイナス！

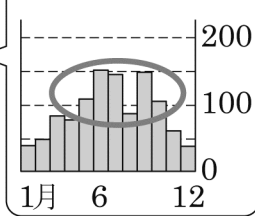


瀬戸内の気候

年平均気温 16.3℃
年降水量 1082.3mm

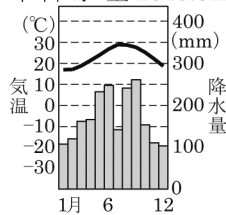


降水量が少ない！

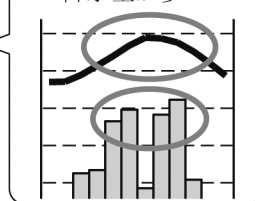


南西諸島の気候

年平均気温 23.1℃
年降水量 2040.8mm



気温が高く
降水量が多い



(2) aは抑制裁培，bは促成栽培によって，ほかの地域と出荷時期をずらして野菜を出荷していることがわかる。

問4 (1) 岩手県の釜石市では地元の鉄鉱石を原料として，福岡県の北九州市では中国の鉄鉱石を原料として高度経済成長期に鉄鋼業を発展させた。どちらも近年では鉄鋼業は衰退し，輸送用機械工業がさかんである。

(2) IC工場は，東北地方や九州地方にも進出していることから，分布はQが正解。IC（集積回路）はコンピュータの部品であり，高価であるが製品は軽いため，運賃が高い航空機や高速道路を使っても採算が合う。そのため，空港や高速道路沿いに工場の分布が見られる。よって，分布の特徴はIが正解。石油化学コンビナートは，原料の石油のほとんどが輸入に頼っていることから，沿岸部に分布する。よって，分布はSが正解で，分布の特徴はAが正解。